

令和五年奉讃法会をお迎えするにあたり

総 務 弓 削 弘 胤

私どもが今まで経験したことのない新型コロナウイルス感染症は、終息するどころかますます予断を許さない状況が続く中、令和四年も残りわずかとなりました。

さて、真宗高田派本山専修寺では、令和五年五月に特別法会をお迎えいたします。二十一日(日)～二十四日(水)は宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年並びに立教開宗八百年、二十五日(木)～二十七日(土)は中興真慧上人五百年忌、二十八日(日)は聖徳太子千四百年忌の奉讃法会を、「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう」というテーマの基に厳修いたします。

親鸞聖人は承安三(一一七三)年ご誕生され、令和五年が八百五十年に当たります。比叡山で修行に励まれ、二十九歳の時に師である法然上人のお導きにより、『南無阿弥陀仏』(なもあみだぶつ)

という念仏の教えに帰依されました。その後念仏弾圧により流罪となった後、関東を中心に念仏の教えを布教され、晩年まで『教行信証』や『和讃』等、数多くの著述に力を注がれ、その九十年の生涯と教えは今も多くの人々を魅了して止みません。

また、真宗の根本聖典である『教行信証』草稿本を著されたのは、元和元（一二二四）年で、二〇二四年に節目の八百年を迎えます。

高田派の「中興の祖」と呼ばれた真慧上人は、本山を栃木県から三重県の一身田に移す基礎を築き、東海や北陸の教線拡張を果たされました。真慧上人は比叡山に赴き、高田の専修念仏の真義を解き明かされ、比叡山の学僧は上人の学徳に敬服し、高田の法流に誤りなき証拠として、阿弥陀如来の尊像を贈られました。これを『証拠の如来』として、如来堂の本尊として、現在も安置されています。永正九（一五二二）年に遷化された上人の五百年忌をお勤めいたします。

親鸞聖人は、聖徳太子を『和国の教主』と仰がれ讃えられました。真宗のお寺には、本堂の余間

に『七高僧』と『聖徳太子』の絵像が並んで安置されています。これは親鸞聖人が聖徳太子を日本のお釈迦さまと仰がれ太子の仏徳を讃歎されたからです。本年二〇二二年が推古天皇三十(六二二)年から数えて、節目の千四百年となります。

奉讃法会の期間中には、毎日午前十一時から勤行が、お勤めの後にはお説教がございます。その他、ご参詣されました皆さまにお楽しみいただくため、様々なイベントや行事を予定しております。是非とも多くの皆さまをお誘いの上、こぞつてご本山にお参りいただきませうようお願い申し上げます。

宗門を取り巻く社会環境は、本山はもとより各御寺院にも年々厳しさを感じさせる状況ではあります。しかし、このような状況であることから、さらにお念仏を大切に、皆さんと共に歩んで参りたいと存じます。難題山積の時代ではありますが、今後とも宗門護持のため、物心両面のご支援ご協力をお願い申し上げます。

宗 達

宗 達 第一一八二号

法主殿来る令和四年十月十七日午前十一時より津市乙部上宮寺住職納骨にあたり御直香相成る
令和四年十月三日

法主鈐印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八二号

宗達第一一七七号 令和四年十二月三日

真宗高田派専修寺横浜別院報恩講法主殿御親修御親教中止となる

令和四年十月十二日

法主鈐印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八三号

法主殿来る令和五年一月十五日報恩講に御親教相成る

令和四年十一月二十四日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八四号

法主殿来る令和四年十二月十六日午後一時より真宗高田派専修寺神戸別院報恩講に御親修御親教相成る

令和四年十一月二十四日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一一四〇号

来る令和五年一月一日より同三日まで修正会執行相成る

一日 御繙御書拝読 維 那 水 沼 秀 明

令和四年十一月二十四日

宗 告 第一一四一号

左記の通り報恩講執行相成る

一、日 時 令和五年一月九日速夜より同十六日日中まで

速 夜 九日のみ十二時三十分 (洪鐘撞止)

晨 朝 午前七時 (同)

日 中 午前十時三十分 (同)

速 夜 午後二時 (同)

初 夜 午後四時三十分 (同)

宗務総長 大僧都 増田修誠
総務 中僧都 藤谷弘良
律師 弓削弘胤

後夜 十五日 午後十一時
御参廟 十六日 午前九時

(洪鐘なし)
(洪鐘九吼)

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣・紋章五条袈裟・差袴着用

一、参勤者には非時料下さる

令和四年十一月二十四日

宗務総長

総務

総務

大僧都

中僧都

律師

増

藤

弓

田

谷

削

修

知

弘

誠

良

胤

宗 告 第一一四二号

来る令和五年二月一日午前十時年賀式執行相成る

令和四年十一月二十四日

宗務総長

総務

総務

大僧都

中僧都

律師

増

藤

弓

田

谷

削

修

知

弘

誠

良

胤

任 免

令和四年十月四日

令和四年福井別院報恩講中布教師を命ずる

専福寺住職

金森 顕宏

依請解其職

名古屋別院輪番

三井 真淳

令和四年十月十日

威儀視察を命ずる

深正寺住職

春日部英輝

威儀視察を命ずる

浄見寺住職

醫山 敏慧

令和四年福井別院報恩講中威儀視察を命ずる

信行寺住職

波刃野俊香

補 名古屋別院輪番

妙法寺住職

井上 義正

勝林寺住職

武田 純真

任 名古屋別院副輪番

万徳寺住職

安藤 俊清

榮照寺住職

藤原 法壽

任 名古屋別院副輪番

教津坊住職

伊藤 真道

勝光寺住職

佐々木俊英

令和四年福井別院報恩講中唱導師を命ずる

仙福寺住職

佐々木真修

名古屋別院責任役員を命ずる

名古屋別院総代

安藤 俊清

稱名寺住職

佐々木誓實

名古屋別院責任役員を委嘱する

名古屋別院総代

坂 直樹

本流院住職

秦 一心

令和四年十月七日

依請解其職

威儀視察

服部 義雲

名古屋別院総代を命ずる

万徳寺住職

安藤 俊清

名古屋別院総代を委嘱する

名古屋別院

坂 直樹

名古屋別院 坂 康夫

名古屋別院理財員を命ずる

名古屋別院 野下富美雄

名古屋別院評議員 玉腰 超克

名古屋別院評議員を委嘱する

名古屋別院 坂 直樹

名古屋別院佑事を命ずる

万徳寺住職 安藤 俊清

名古屋別院 坂 康夫

教津坊住職 伊藤 真道

名古屋別院 野下富美雄

名古屋別院承事を命ずる

浄泉寺衆徒 戸田 栄信

名古屋別院評議員を命ずる

万徳寺住職 安藤 俊清

令和四年十月十九日

関東別院佑事 英 法悦

浄泉寺住職 古井戸康心

依請解其職

英 法悦

教圓寺住職 鍋島 時行

補 関東別院輪番

正福寺住職 英 法悦

善明寺住職 平山 教導

唯願寺住職 平野 崇敬

令和四年十二月一日

令和五年報恩講一月十日初夜式文代読を命ぜらる

眞福寺住職 劉 貞純

維 那 権中僧都 水沼 秀明

常照寺住職 亮 雅弘

令和五年報恩講一月十一日初夜式文代読を命ぜらる

維 那 助勤 大僧都 清水谷正尊

正信寺住職 玉腰 超克

教津坊住職 伊藤 真道

久遠寺住職 高山 元智

願隆寺住職 石濱 章友

令和五年報恩講一月十三日初夜式文代読を命ぜらる

維 那 長 大僧都 玉樹 真祥

西光寺住職 友松 順真

宗延寺住職 近藤 康成

徳林寺住職 林 晃亮

教聖寺住職 守山 諦薫

令和五年報恩講一月十四日初夜式文代読を命ぜらる

維那 中僧都 清水谷亮雅

住職拜命

令和四年十二月十日

東京都練馬区春日町 南松寺副住職 櫻木谷慈光

補 南松寺住職

組長交代

令和四年十月二十五日

依請解其職 東京組組長 英 法悦

東京組組長を命ずる 本行寺住職 山中 悠俊

令和四年十月三十一日

依請解其職 三重第十七組北部組長 中瀬 弾正

令和四年十一月一日

三重第十七組北部組長を命ずる

正福寺住職 曾我 正観

三重県松阪市曾原町 法性寺住職 真置 徳海

依請解其職 法性寺住職 真置 和徳

愛知県名古屋市中区新福寺町 圓福寺衆徒 椎尾 一了

補 圓福寺住職 圓福寺住職代務者 寺本 賢照

依請解其職 圓福寺住職代務者 寺本 賢照

副住職任命

令和四年十月九日

三重県鈴鹿市池田町
任 養元寺副住職

愛知県田原市西神戸町
任 西光寺副住職

令和四年十一月十五日

三重県松阪市中町
任 常念寺副住職

三重県松阪市白粉町
任 常教寺副住職

養元寺衆徒 高島 広法

西光寺衆徒 都築 崇寛

常念寺衆徒 野村 涼成

常教寺衆徒 野村 洸成

得度

令和四年十二月十日

東京都港区赤坂
水蓮院 妙枝 院家首席二等 正福寺衆徒 英 はつ枝

東京都港区赤坂
音聲院 妙智 院家首席二等 正福寺衆徒 孫田 チエ

特許法衣

令和四年十月二十日

一、紅葉重色色衣着用を許可する
一、薄藤色八藤白大紋差袴着用を許可する

幸蓮寺衆徒 千枝 信隆

身分堂班

令和四年十月二十日

列 其身一代堂班

准上座格三等

幸蓮寺衆徒

千枝

信隆

令和四年十一月十五日

三重県松阪市中町 常念寺衆徒に転属を許可する

三重県松阪市白粉町

常教寺衆徒

野村

涼成

僧階

令和四年十二月六日

任 大律師

権少僧都

少僧都

権中僧都

中僧都

弓削

弘胤

布教任命

納骨堂法会説教(日中)

一一・三

一一・四

権中僧都

権大僧都

松山

真昌

智道

智海

秋法会説教(日中)

一一・五

一一・六

一一・七

一一・八

一一・九

一一・十

少僧都

律 師

権中僧都

律 師

権少僧都

律 師

千草

安藤

藤浦

水谷

真置

大河戸

篤昭

純海

弘導

忍英

信海

悟道

転属

令和四年十一月四日

浄土真宗本願寺派

中善寺へ転属を許可する

北海道空知郡上富良野町栄町

専誠寺衆徒

熊谷

義真

十一月御影堂常在説教（晨朝）

一一・一	少僧都	山中	真論	一一・二二		少僧都	山中	真論
一一・二	中僧都	青木	義成	一一・二三		權中僧都	田中	明誠
一一・三	權中僧都	田中	明誠	一一・二四		權中僧都	村上	英俊
一一・四	律師	北畠	心淳	一一・二五		權中僧都	安藤	章仁
一一・五	權中僧都	藤田	正知	一一・二六		權大僧都	浦井	宗司
一一・六	權大僧都	戸田	栄信	一一・二七		權大僧都	浦井	宗司
一一・七	大律師	北畠	大道	一一・二八		律師	隆	妙灑
一一・八	少僧都	青木	妙法	一一・二九		律師	古芝	智泉
一一・九	權中僧都	中村	宜成	一一・三〇		少僧都	上田	英典
一一・一〇	律師	若林	妙百					
一一・一一	律師	隆	妙灑					
一一・一二	律師	田中	唯聰	一一・一五	十一月御影堂常在説教（逮夜・日中）	權少僧都	高藤	英光
一一・一三	權少僧都	真置	信海	一一・一六	日中	權少僧都	高藤	英光
一一・一四	權中僧都	中村	宣成					
一一・一五	權中僧都	鷲山	了悟					
一一・一六	權中僧都	里榮	秀教	一一・一九	晨朝	少僧都	千草	篤昭
一一・一七	少僧都	岡	知道					
一一・一八	中僧都	佐藤	弘道	一一・二〇	晨朝	律師	水谷	忍英
一一・一九	大律師	高島	光憲					
一一・二〇	律師	山中	久行		日中	權中僧都	松山	智道
一一・二一	中僧都	青木	義成					

十二月御影堂常在説教（晨朝）

一二・一	權中僧都	安藤 章仁	一二・二四	大僧都	上田 隆順	
一二・二	權中僧都	里榮 秀教	一二・二五	權中僧都	上田 明誠	
一二・三	律 師	田中 唯聰	一二・二六	權大僧都	田中 明誠	
一二・四	律 師	北畠 心淳	一二・二七	權大僧都	浦井 宗司	
一二・五	權中僧都	藤田 正知	一二・二八	少僧都	浦井 宗司	
一二・六	權中僧都	中村 宣成	一二・二九	律 師	上田 英典	
一二・七	少僧都	山中 真諭	一二・三〇	少僧都	若林 妙百	
一二・八	中僧都	青木 義成	一二・三一	權中僧都	青木 妙法	
一二・一一	中僧都	戸田 恵信	十二月御影堂常在説教（逮夜・日中）			鷲山 了悟
一二・一二	權少僧都	真置 信海				
一二・一三	律 師	堤 一真	一二・七	中僧都	青木 義成	
一二・一四	權中僧都	中村 宣成	一二・八	律 師	隆 妙灑	
一二・一五	律 師	隆 妙灑	一二・一五	權少僧都	高藤 英光	
一二・一六	權大僧都	戸田 栄信	一二・一六	權少僧都	高藤 英光	
一二・一七	中僧都	佐藤 弘道	高田慈光院 月例法会			真置 信海
一二・一八	權中僧都	田中 明誠				
一二・一九	大律師	北畠 大道	一一・一〇、一六、二六	權少僧都	真置 信海	
一二・二〇	少僧都	山中 真諭	一二・一〇、一六、二六	權中僧都	田中 明誠	
一二・二一	權中僧都	生桑 崇等	報徳園 月例法会			真置 信海
一二・二二	少僧都	岡 知道				
一二・二三	大律師	高島 光憲	一二・一五	少僧都	藤浦 弘導	

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和三年

一〇・一五

三重県津市大里小野田町

長久寺前坊守

恒河 妙

令和四年

九・一〇

三重県四日市市大字塩浜

栄信寺前住職

藤木 義山

贈 少僧都

一〇・一

三重県鈴鹿市神戸

宗休寺前住職

北條 隆乘

贈 大律師

一〇・二二

三重県松阪市嬉野新屋庄町

称名寺前坊守

高林 隆子

一〇・二二

福井県あわら市北潟

要願寺前坊守

丹羽 輝子

一〇・二八

福井県坂井市三国町南本町

遠成寺前住職

北條 顕英

贈 権大僧都

一一・二〇

三重県松阪市山室町

西楽寺住職

高藤 秀憲

贈 権中僧都



宗門のお知らせ

報恩講 説教一覽表 (令和五年)

日(曜)	晨朝(午前七時)	日中(午前十時三十分)	速夜(午後二時) ※九日(十二時三十分)	初夜(午後四時三十分)	大講(土 時三十分)
九日(月祝)			律 師 田中 唯聰	中僧都 佐藤 弘道	
十日(火)	権中僧都 生彥 崇壽	権少僧都 真置 信海	権中僧都 中村 宜成	律 師 水谷 忍英	権大僧都 松田 信慶
十一日(水)	律 師 北畠 心淳	権中僧都 栗廻 隆眞	律 師 安藤 純海	権中僧都 鷺山 了悟	少僧都 花山 光瑞
十二日(木)	中僧都 藤井 徳雄	権中僧都 藤浦 弘尊	権中僧都 金森 顕宏	少僧都 岡 知道	中僧都 戸田 恵信
十三日(金)	律 師 水沼 碧永	権大僧都 浦井 宗司	律 師 隆 妙灑	権中僧都 里菜 秀教	権中僧都 島 義厚
十四日(土)	権中僧都 安藤 亨仁	権中僧都 田中 明誠	律 師 大河戸 悟道	少僧都 千草 篤昭	中僧都 芳川 賢史
十五日(日)	権中僧都 藤田 正知	御 親 教	権大僧都 鈴木 紀生	権中僧都 松山 智道	中僧都 藤澤 眞純
十六日(月)	中僧都 戸田 栄信	権大僧都 喜昌 智海			権中僧都 安田 真源

復 演 (御影室御親教後)
特別講演 (如来堂九時)

十五日(日) 鑑学 栗原 廣海
十三日(金) 輔講 梅林 久高
十四日(土) 鑑学 新 光晴

宗門のお知らせ

報恩講の諸行事

一月九日(月・祝)

・はたちの集い

一、受付

十二時

宗務院一階

一、参拝

十二時三十分

逮夜

御影堂

一、つどい

十三時三十分

賜春館

一月十日(火)

・高田幼稚園参詣

午前中

一月十一日(水)

・高田学苑参詣

九時

如来堂・御影堂

・お七夜婦人連合会

一、式典

十三時

御影堂

一、参拝

十四時

逮夜

一月十二日(木)

・お七夜坊守会

一、受付

十三時三十分

御影堂

一、参拝

十四時

逮夜

一、座談会

十五時頃

第一会議室

講師

金森 顕宏 師

宗門のお知らせ

一月十三日(金)

・責任役員会

一、受付 十一時

一、役員会 十一時四十五分頃

御影堂前
御影堂

・特別講演

一、講演 九時～十時

如来堂

一、講題 「親鸞聖人の晩年」

講師 梅林 久高師

一月十四日(土)

・特別講演

一、講演 九時～十時

如来堂

一、講題 「『窪田御山御再興記』

― 国宝御影堂・如来堂の記録―」

講師 新 光晴師

・他山御焼香 十時

一月十五日(日)

・法主褒賞授与式 十一時五十分頃

御影堂

・お七夜婦人連合会初夜参詣 十六時三十分

御影堂

説教 松山 智道師

・白塚念仏講 十九時

御影堂

宗門のお知らせ

・後夜 二十三日

御影堂

一月十六日(月)

・御参廟 九時

一月九日～十五日 竹あかり展 境内

十六時三十分より(十八時閉門) ※十五日は二十三日半閉門)

子ども竹あかりを同時点灯いたします

九日のみ 点灯式 十七時三十分頃

一月九日～十六日 献書展 大玄閔廊下

一月九日～十六日 ののさまをえがこう展 御対面所

一月九日～十六日 雲幽園見学 茶所受付

九日 十三時

十日～十五日 十時・十三時

十六日 十時

一月十五日 国宝御影堂特別拝観

十二時三十分～十三時三十分

御影堂

一月九日～十六日 教団連合「真宗十派報恩講巡り」スタンプラリー

境内テント

安心・安全にご参拝いただくために



参拝の皆様へ【お願い】

- ・参拝の際はマスクの着用をお願いします。
- ・会話の声量は控えめに。
- ・密集を避けるため、お互いに間隔を広くとってください。
- ・検温、アルコール消毒にご協力ください。
- ・境内飲食厳禁。飲食エリアをご利用ください。

あらかじめ、ご承知おきください

- 発熱(37.5℃以上)や咳・のどの痛みなど新型コロナウイルス感染が疑われる症状のある方、濃厚接触者の方は入場をお断りする場合がございます。

第四十六回

住職補任研修会実施のお知らせ

標記の件につきまして、住職・住職代務者・副住職規程（宗規第十七号）により、住職補任研修を受講することが、住職及び副住職補任申請の必須条件です。

住職及び副住職を拝命予定の皆様は、早めに受講いただきますようお願いいたします。
なお、教師資格を取得された方が対象となります。

研修予定日

令和五年

二月二十五日(土) 十二時三十分

二十六日(日) 〃十二時頃、解散予定

研修内容

- ・ 真宗教義と高田派の歴史
- ・ 住職道、布教道
- ・ 宗教法人法
- ・ 寺院規則
- ・ 声明
- ・ 法式作法

・ 現状と課題

申込み方法

指定の申込書を令和五年一月二十日までに
本山宗務院教学課宛に郵送、FAXにてお申し込み下さい。

研修費用

二〇,〇〇〇円(当日、ご持参下さい。)

定員

二十名(定員になり次第受付終了。)

詳細は宗務院教学課までお問い合わせ下さい。

〒五一四一〇一一四

三重県津市一身田町二八一九

真宗高田派宗務院教学課 宛

TEL (〇五九一)二三二一四一七一

FAX (〇五九一)二三二一四一四一

教学院だより

令和四年度、教学院研究発表大会報告

教学院の全研究員が個々に取り組んでいる研究について発表するのが「教学院研究発表大会」です。今年は第二十七回目となり、約四十名の聴講者に来ていただきました。会場は高田会館ホールを利用し、十月三十一日(月)に開催されました。発表題目と発表者は次の通りです。

一、真宗伝道学における寺院活動論

―北米海外寺院の伝道―

第一部会 中川 研究員

二、高田派の教学とは何か

第二部会 藤澤 研究員

三、浄土真宗の御朱印

第三部会 高島 研究員

四、『輪廻と生死

―高田派聖典における用例を中心に―

第四部会 新 研究員

今回の発表については二年に一度の発行になりました『教学院紀要』に内容をまとめた文を掲載いたします。次回の発行は令和五年を予定しております。

午後からは、特別講演が開催されました。講師は真宗高田派本山 専修寺 宝物館館長 大野照文氏に「学びを楽しむ」と題して、講演していただきました。

全国組長会報告

全国組長会が令和四年十月十八日(火)

午前十時三十分より高田会館ホールにて開催され、全国各地より四十一名の出席がありました。

法主殿のお言葉に続き、宗務総長挨拶、宗議会報告、特別法要事務局より説明が行われ、最後に質疑応答がありました。

本山行事予定

(一月・二月)

一月一日～三日

修正会

一月九日～十六日

報恩講

一月九日～十六日

お七夜献書展

一月九日

はたちの集い

一月十一日

お七夜婦人連合会

一月十二日

お七夜坊守会

一月十三日

責任役員会

一月十五日

お七夜婦人連合会初夜参詣

二月二十五・二十六日

第四十六回住職補任研修会



下付金のお知らせ

平成二十八年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和四年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

るるぶ親鸞ゆかりの地



親鸞聖人ご生誕 850 年となる記念イヤー 2023 年。浄土真宗開宗から 800 年。再注目される親鸞聖人のゆかりの地や、浄土真宗の本山寺院を詳細ガイド。本山寺院近くの観光スポットや食べる、買うといった旅行の楽しみを「るるぶ」らしく提案。モデルコースも掲載しています。

(目次)

漫画(挿絵)で読む、親鸞聖人の生涯
親鸞聖人とは? 年表&人物相関図
報恩講を知っていますか+他の記念行事・年間行事
真宗十派ご本山巡り
京都 福井 三重 滋賀
モデルコース
聖人ゆかりの地&立ち寄りスポット
番外編 流罪の地、越後へ
番外編 二十四輩寺院
聖人コラム (歎異抄などを通して見る親鸞聖人)

全国書店にて販売中 価格 1,100円(税込)

親鸞

50TH ANNIVERSARY SPECIAL EXHIBITION
SHINRAN
The Life and Legacy of the Founder of Shin Buddhism
 March 25–May 21, 2023

生涯と名宝



親鸞聖人生誕 850年 特別展

いまこそ、親鸞の声を聞く。

鸞

2023年
3月25日(土) - 5月21日(日) [主な展示日]
※念願堂二部の作
品は上記以外も
展示を行います。

前期展示：3月25日(土) - 4月23日(日)
 後期展示：4月25日(火) - 5月21日(日)

休館日：月曜日 開館時間：午前9時～午後5時30分まで
 入館は閉館の30分前まで
 平成新館 KYOTO NATIONAL MUSEUM [東山七条] 京都市東山区紫野5-2-2 問合せ：075-552-2473 テレホンサービス
 NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿 特別協力：真宗教団連合 公式サイト：https://shinran850.jp/

親鸞展割引引換券

本券を切り取り、下記の割引料金をそえて、京都国立博物館南門チケット売場にて観覧券をご購入の上、ご入館ください。

- 1枚につき4名様限り。真宗教団連合各派寺院、ご門徒の利用に限りコピー可
- 他の割引特典等との併用はできません

一般当日 1,800円 → 1,600円
 大学生当日 1,200円 → 1,000円
 高校生当日 700円 → 500円

	ご門徒 特別観覧料金 (3/25～5/21)	通常 当日料金 (3/25～5/21)
一般	1,600円	1,800円
大学生	1,000円	1,200円
高校生	500円	700円

※中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料となります(要証明)。
 ※大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。
 ※会期、展示作品等は今後の諸事情により変更する場合があります。

貸し切りバスをご利用は、ご来館のご門徒様につきましては、親鸞展の貸し切りバスの乗降予約と団体観覧予約が必須です。

旅行会社、または団体の責任者(寺院様)より、親鸞展事務局(Eメール shinran10@jtb.com、FAX 075-284-0153、電話 075-276-2282)まで貸し切りバス乗降予約と団体観覧予約をお申し込みください。

国宝 親鸞聖人彫像(安城御影願本)(部分) 京都・西本願寺 (3月25日～4月2日展示)
 桜花園/松・華花園のうち桜花園(部分) 望月王泉筆 京都・東本願寺 (通期展示)

—令和5年より3月と7月の得度式・住職拝命の日付が変更になります—

令和5年 得度式 執行日 住職拝命式

真宗高田派宗務院

得 度

※令和5年より、3月と7月の得度式の日付が変更となりました。

得 度 式	得度研修 (前日)	願書受付期間
3月29日 (水)	3月28日 (火)	4年11月11日～5年2月28日
7月29日 (土)	7月28日 (金)	5年 3月 1日～ 6月29日
10月10日 (火)	10月 9日 (月)	6月30日～ 9月10日
12月10日 (日)	12月 9日 (土)	9月11日～ 11月10日

- 得度式の前日に研修を行います。
- 得度願書の受付は随時行っておりますが、受付時期により得度執行日が決まります。
- 得度式は黒衣・墨袈裟 (本山指定のもの) にて執り行います。衣体の確認を願います。
- 願書受付締め切り後に詳細事項を得度希望者あてに送付いたします。

住職拝命

※令和5年より、3月と7月の住職拝命式の日付が変更となりました。

拝 命 式	願書受付期間
3月29日 (水)	4年11月11日～5年2月28日
7月29日 (土)	5年 3月 1日～ 6月29日
10月10日 (火)	6月30日～ 9月10日
12月10日 (日)	9月11日～ 11月10日

- 住職補任申請の受付は随時行っておりますが、受付時期により拝命日が決まります。
- 拝命式には黒衣・五条 (身分堂班衣体) にて執り行います。衣体の確認を願います。
- 願書受付締め切り後、拝命予定者あてに詳細事項を送付いたします。
- 住職及び副住職を拝命される方は、事前に必ず「住職補任研修会」を受講しておいて下さい。尚、住職代務者及び副住職の拝命は随時の拝命となります、お問い合わせ下さい。

※執行日は本山の諸事情により、変更・中止になる場合がございます。

あらかじめご了承下さい。

※必要書類の請求・詳細は本山宗務院庶務課までお問い合わせ下さい。

※衣体の貸し出しは行っておりません。各自でご用意ください。

宗門のお知らせ

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円

* 災害を証明する書類が必要

・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする
(追加されました)

* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円

* 工事費が1千万円以上の場合となります

* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と

工事契約書の写しが必要

○香料(住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと)

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任40年以上 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○住職退職慰勞金(退職から6ヶ月以内に申請のこと)

上記死亡の場合を適用する

○真宗教学奨学金(毎年4月末日までに申請のこと)

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
- 月額 8万円 若干名

(追加されました)

○奨励金(毎年4月末日までに申請のこと)

共済会が指定した学校学部にて入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

高田短期大学 科目等履修生 募集要項

科目等履修生制度は、大学に入学して学ぶことはできないが、時間の余裕を見つけて、関心や疑問のある分野について専門的に学びたいという方々のために設けられる制度です。本学では、特に仏教学・真宗学を、篤学の方々に広く学んでいただくことを主目的にしています。

制度上、ゼミナールや、実習系統の科目を除く一般の講義科目はどれも履修可能ですが、特に上記の目的にそって、真宗高田派教師資格取得希望者が指定科目の単位を修得すれば、教師検定講習Ⅰにおける該当科目の履修が免除されます。

記

一. 設置科目

人生と仏教Ⅰ（仏教学）

人生と仏教Ⅱ（真宗学）

※開講時期・曜日・時限等の詳細については教務課までお問合せください。

- いずれも半期 15 週の設置科目で、修得単位数は 2 単位。上記の科目の中から、自由に選択して受講できる。1 年間に 2 科目全てを履修することも可能。
- 同一科目で週に複数回開講される科目については、どれを選択してもかまわない。
- 上記の科目の単位を修得すると、真宗高田派の教師検定講習Ⅰにおける該当科目の履修が免除される。
- 上記以外の科目（ゼミナールや実習系統の科目を除く一般の講義科目）についても履修可能である。

二. 出願資格

- 高等学校を卒業した者、または高等学校卒業者と同等以上の学力を有すると認められる者。

三. 出願手続

出願手続は、次の書類に入学検定料を添えて教務課に提出すること。

出願書類

- 科目等履修生入学願書
- 履歴書（市販の用紙・写真添付）
- 最終学校の卒業証明書
- 住民票
- 合否通知用封筒

（長形4号 返送先記入の上、84円切手添付）

（出願希望者は、入学願書用紙を直接教務課へ請求すること）

四. 入学検定料 10,000円

五. 出願期開 令和5年3月1日（水）～3月10日（金） 〔窓口受付期間 月～金 9時～16時 （祝祭日は除く）〕

六. 出願先 高田短期大学 教務課 選考結果については、3月末に通知する。

七. 納付金

- 入学金 10,000円
- 授業料 1単位につき10,000円
（前記の科目は、2単位であるから、1科目20,000円となる）

八. 入学手続

- 検定合格者は、速やかに上記納付金を高田短期大学に納付しなければならない。

<お問い合わせ先>

- 教師検定との関連等について：真宗高田派宗務院
（〒514-0114 津市一身田町2819 TEL059-232-4171）
- 履修について：高田短期大学教務課
（〒514-0115 津市一身田豊野195 TEL059-232-2310）

高田短期大学

人権擁護啓発活動重点項

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和四年十二月十日印刷
令和四年十二月十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三二一四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇二五〇一〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三二二〇七〇